

学校評価報告書

学校名 深谷市立明戸小学校
校長名 横田 茂男

1 学校評価のねらい (学校としての受け止め)

学校教育法に基づいて実施するもので、結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めるために実施する。また、学校教育法施行規則を受け、教職員や保護者、関係者の評価を行い、結果を公表するものとする。

目的は以下のとおり。

- (1) 教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。
- (2) 教職員や保護者、関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- (1) 教職員及び保護者、児童による評価を年2回(7月、12月)実施する。
- (2) 学校関係者評価は、学校運営協議会委員を対象として、年1回(2月)実施する。
- (3) 評価は、各々が、評価用紙に記名しての回答とする。評価は4段階評価とする他、教職員及び保護者、学校関係者は、改善案等を自由記述の項目を設ける。
- (4) 評価結果を踏まえ、学校では、教職員の代表者による評価検討委員会を7月及び12月に組織し、改善案を検討する。評価結果及び改善案については、保護者へ周知し、理解を求める。

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化 ○:12月が7月より向上 ●:12月が7月より低下

ア 保護者評価

- 「おさんは、『学校が好き』と言っている。」が、96.1%から97.6%になった。
- 「学校は、便り、ホームページ、連絡メール等で、教育活動を保護者や地域の方々に積極的に公開している。」が、96.2%から98.1%になった。
- 「学校の環境整備が十分に行われている。」が、97.6%から99.0%になった。
- 「学校は、子どもに学力がしっかり身につくように指導している。」が、99.0%から96.1%になった。

イ 教職員評価

- 「障害のある児童等の教育的ニーズに応じた支援を行っている。」が91.7%から100%になった。
- 「社会に奉仕する態度を育てる教育活動を実践している。」が、90.9%から100%になった。
- 「業務を働き方の改善から見つめ、具体的な行動を起こしている。」が、66.7%から100%になった。
- △「残業時間が昨年度の同時期に比べ減少している。」が、50%から57.1%の微増に留まった。
- 「児童に表現力や発表力などが身に付くよう指導している。」が、100%から91.7%になった。

ウ 児童の評価

- 「今の夢や大人になってやりたいことにむかって努力しています。」が、96.9%から98.7%になった。
- 「学校に来るのが楽しいです。」が、96.0%から97.3%になった。
- 「『ありがとう』『ごめんなさい』がしっかり言えます。」が、98.7%から99.5%になった。
- 「自分の意見や考えを発表することができます。」が、92.4%から87.0%になった。
- 「作文を書くのが好きです。」が、80.8%から72.3%になった。

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

ア「学ぶ力のある子」

(ア)保護者評価

- ・「お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいる」96.6%
- ・「学校は子どもに学力がしっかり身につくように指導している」96.1%

(イ)教職員評価

- ・「児童に確かな学力が定着している。」100%
- ・「学習規律が定着している。」100%

(ウ)児童の評価

- ・「授業は楽しくわかりやすいです。」96.9%
- ・「毎日学習しています。」97.3%

イ「心の豊かな子」

(ア)保護者評価

- ・「お子さんは、友達と仲良く学校生活を送っている。」99.0%
- ・「学校は、子どもにやさしい思いやりの心が育つように指導している。」96.5%

(イ) 教職員評価

- ・「いじめや問題行動への対処・指導を迅速に行っている。」 91.7%
- ・「学級活動や集会活動を通し、好ましい人間関係が育ってきている。」 100%
- ・「教育活動を通して道徳教育を実践し、豊かな心が育っている。」 100%

(ウ) 児童の評価

- ・「めあてにむかってあきらめずにがんばることができます。」 97.8%
- ・「友だちを助けたり、やさしくしたりできます。」 98.7%

ウ「たくましく生きる子」

(ア) 保護者評価

- ・「学校は、子どもの体力づくりのために積極的に取り組んでいる。」 98.6%

(イ) 教職員評価

- ・「児童の体力は向上している。」 100%
- ・「保健指導を通して、自己管理ができる児童が育っている。」 100%

(ウ) 児童の評価

- ・「マラソンや運動、外遊びなどをして、元気な体づくりに取り組んでいます。」 92.0%

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

(ア) 教職員評価

- ・「教職員としての資質向上に努めている。」 100%
- ・「児童に、表現力や発表力などが身につくよう指導している。」 91.7%
- ・「児童に確かな学力が確かな学力が定着している。」 100%

(イ) 児童の評価

- ・「自分の意見や考えを発表することができます。」 87.0%
- ・「作文を書くのが好きです。」 72.3%

4 次年度に向けての展望

※年度間の変化をみとり考察する

ア 保護者評価では、「学校は、子どもに学力がしっかり身に付くように指導している」が、98.7%(H28.12)から96.1%に低下している。教員の授業力の向上が求められている。

授業の「めあて」や「まとめやふり返し」を毎時間大切にしたり、ICTの活用を積極的に行うなどし、わかりやすい授業を心掛けていく。さらに、授業スタンダードや学習規律の徹底を図りながら、児童の学力向上を図っていく。

イ 保護者評価では、「子どもは、場に応じて礼儀正しい言葉遣いで話している。」が、昨年度前期81.9%(H28.7)、同後期87.7%(H28.12)、今年度は90.6%と向上している。

これは、PTAが主体となって、家庭において各家庭に於いて『げんきにあいさつうんどう』に取り組んだ成果であると捉えている。なお、この取組は、今年度第1回の学校運営協議会から、「元気なあいさつができる児童を育成したい」「児童が地域の中で成長が実感できるようにしたい」との提言を受けて行ったものである。

今後も、教職員自ら、言葉遣いに気を付け手本を見せるなどして、言葉の環境を整えていく。

ウ 保護者評価では、「学校は、安全（防犯や事故）に対して取り組んでいる。」が、94.7%（H28.12）から98.1%と向上している。

市の取組として、今年度より、市内全児童がヘルメットを着用して登下校するようになったこと、教員による朝の登校指導の回数を増やしたこと、不審者対応をはじめとする避難訓練を実施していること等が保護者に評価されている結果だと捉えている。

児童の安全安心の確保に向けては、学校が事前に想定し、さらに対応していく必要がある。

エ 教職員評価「教職員としての資質向上に努めている。」は、昨年度、今年度とも100%である。今年度は、校内研修において、大学教授の講話を聞く機会を得た。また、一人一人が課題意識を持ちながら全担任が授業公開を行うなど、積極的な取組姿勢がみられる研修となった。来年度は、教員が、それぞれの長所を伸ばしていけるような研修を行っていききたい。

オ 児童の振り返り「マラソンや運動、外遊びなどをして、元気な体づくりに取り組んでいます。」が、94.5%（H28.12）から92.0%（H29.12）と低下している。

今年度は、業前運動の内容を、学年別に様々な種目を行い、総合的に体力向上を図ってきた。今後も、体力向上を継続しながら、体育の授業の充実を図り、運動を好み自主的に体づくりに取り組む児童を育成していく。